

姫路駅北駅前広場整備と地下街「グランフェスタ」 のリニューアルについて

A IMPROVEMENT OF NORTH STATION SQUARE OF HIMEJI STATION AND A RENOVATION PROJECT OF UNDERGROUND MALL “GRANDFESTA”

位田 英樹^{1*}・鈴木 康久²

Hideki IDA^{1*}, Yasuhisa SUZUKI²

After elevated railroad tracks project, Himeji City developed "CASTY 21 plan" and "Conceptual plan of Himeji city center". According to these plans, infrastructure development projects at the city center have been implemented with citizens and business operators.

A core of these projects is a improvement of north station square of Himeji Station, which has launched since 2011. In this project, "Sunken Garden" opened in April 2013, which was public square located underground level. "GRANDFESTA" opened in March 2013, which was developed by a business operator (Festa Corp) as a renovation project of underground mall in front of the station.

In this paper, we provide with the outline of these projects.

Key Words : *Underground mall, Station square, Public-Private partnership, Improvement and Vitalization in City Centers*

1. はじめに

姫路市は、古来より播磨地域（兵庫県南西部）の中心として栄え、世界文化遺産・国宝姫路城に象徴される歴史文化都市として、また近代から現代にかけては活力ある商工業都市として発展を遂げてきた。なかでも、姫路城と姫路駅を核とした都心部は、播磨地域の政治・経済・文化の中心地としての役割を担ってきた。

このような背景から、本市では「キャスティ21計画」や「姫路市都心部まちづくり構想」を策定し、「歴史を育み、賑わいと感動あふれる都心の再生」を目標に基盤整備を進めるとともに、市民や事業者、関係機関と連携して魅力あるまちづくりの推進に取り組んでいる。

その中核を成す姫路駅北駅前広場の整備に平成23年度から本格着手し、平成25年4月にサンクンガーデンがオープン、また駅前広場整備に合わせ地下街事業者（株フェスタ）により駅前地下街のリニューアル工事が実施され、同年3月に「グランフェスタ」としてグランドオープンを迎えた。

本稿では、姫路駅北駅前広場の整備及び駅前地下街のリニューアル工事の概要等について報告する。



図-1 姫路駅北駅前広場イメージ図

2. 姫路駅北駅前広場の整備について

(1) 計画の概要

世界文化遺産・国宝姫路城を有する播磨の中核都市・姫路の玄関口にあたる北駅前広場周辺は、まちの顔として、来訪者に第一印象を与える重要な地区である。

そのため、国内外から多くの人が訪れる都市の玄関口にふさわしく、高質で利便性が高く、ゆとりとうるおいにあふれた賑わいのある空間とするため、駅前広場整備に合わせて、広場と接道するシンボルロード（大手前通り）や隣接街区を一体的に整備する。

キーワード：地下街、駅前広場、官民協働、都心の再生

¹ 非会員 姫路市役所 姫路駅周辺整備室駅部・街路担当係長 Development around Himeji station room Himeji City Government Office,
(E-mail:hideki_jda@city.himeji.hyogo.jp)

² 非会員 株式会社フェスタ 取締役総務部長 General Manager, Festa Corp.

それにより、広場空間としての面積は現在の約5倍（約3万平方メートル）となる。

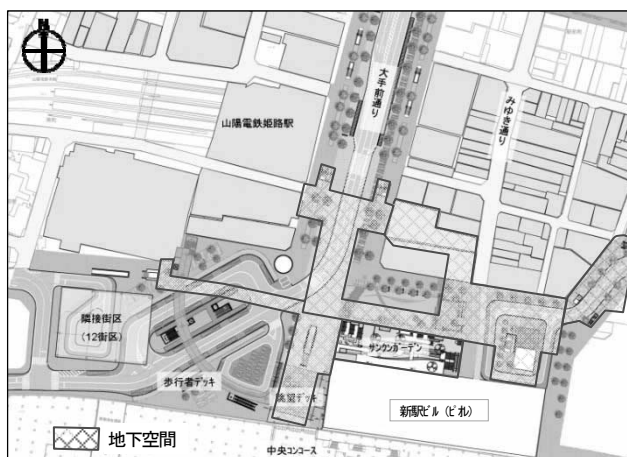


図-2 地下空間箇所図

駅前広場内に整備するサンクンガーデンは、グランフェスタと新駅ビル（ピオレ：JR西日本）の間に整備した吹き抜けの地下庭園で、かつて姫路城の外堀がここに存在したことから、外堀をイメージして中央にせせらぎを設け、緑も多く取り入れている。また、すべての人が訪れやすいように段差をできるだけ少なくし、エレベーターやエスカレーター、スロープを配置した。

サンクンガーデンではオープン当初から、買い物途中に小休止されている姿や家族連れ、学生などが多く見受けられており、最近では、地上の喧騒から一段下がった癒しの空間として定着してきている。

さらに、JR 姫路駅が本市のシンボルロード（大手前通り）を挟み姫路城と正対しているという立地を活かし、中央コンコース北側に姫路城を正面に望むことができる眺望デッキ（鉄と木を組み合わせ城へ向かう「門」をイメージ）を整備し、「姫路らしい」玄関口を演出している。

北駅前広場整備後は、グランフェスタを中心とした地下レベル、一般車の通行制限を前提に再整備する地上レベル、JR 姫路駅・バス乗降場・山陽電鉄姫路駅を繋ぎ、公共交通の乗換利便性を高めるデッキレベルの三層の歩行（移動）空間となる。



写真-1 サンクンガーデン



写真-2 眺望デッキ



写真-3 新駅ビル（ピオレ）

3. 地下街の再整備について

地下街は、昭和30年代に建設されており、施設設置後40年以上が経過し、施設の老朽化や商業施設としての魅力の低下、バリアフリー対応などが課題となっていた。

そのような折、JR姫路駅周辺においてJR線高架事業や土地区画整理事業が計画され、それに伴って設備の共用など地下街と一体を成していた旧駅ビルが移転撤去されることになった。

これを契機に、商業施設としての魅力の向上、利用者の安全性と利便性・快適性の向上、設備更新などを目的に、地下街事業者が地下街の全面改修を計画。計画では、新たに整備するサンクンガーデンや中央地下通路と接続するとともに、これらを介して、新駅ビル（ピオレ）と接続することとした。

(1) 姫路地下街の経緯

昭和34年11月	姫路地下街開業（一期工事）
昭和39年 9月	地下街増築（二期工事）
昭和47年10月	地下街増築（三期工事）
昭和49年12月	駅東ビル地下ゴールド街開業
平成21年11月	テナント移転開始
平成23年 2月	テナント移転完了
～平成24年2月	旧駅ビル撤去、地下街内装・設備撤去
平成24年7月～平成25年3月	地下街リニューアル工事

平成25年3月 「グランフェスタ」 グランドオープン

(2) 改修内容

通路及び店舗の内装や設備の全面改修、エスカレーター設置、階段の新設・改修、トイレの新設・改修など。

a) 施工床面積：約6900㎡

b) 工期：平成24年7月～平成25年3月

c) 事業費：約22億円

d) 工事内容

- ・通路改修
- ・店舗部改修
- ・エスカレーター設置（上下） 4基
- ・階段 新設1か所、改修5か所
- ・トイレ整備 2か所
- ・設備改修

e) 設備等の改修概要

- ・空調設備、電気設備、防災設備、給排水設備等の設備改修
- ・防災設備として、通路部分に排煙設備を導入し、順法化を図った。
- ・改修後の設備は、省エネルギーに配慮した設備を積極的に採用し環境に配慮するとともに、防災センターで一元的に管理。

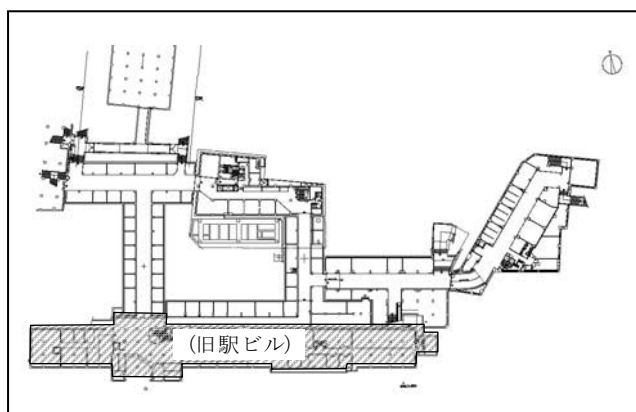


図-3 改修前平面図

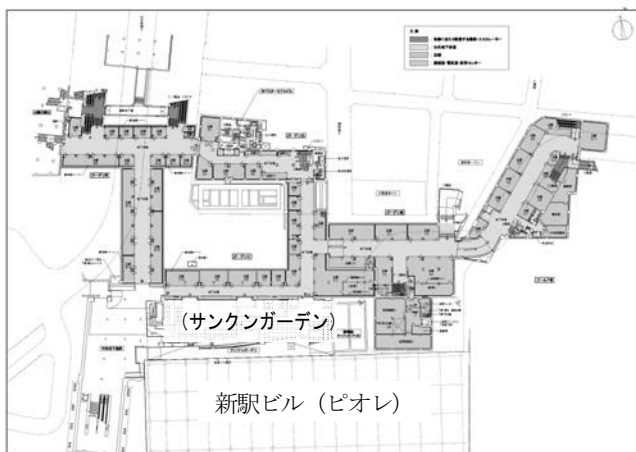


図-4 改修後平面図

f) 耐震改修

地下街部分は、耐震診断の結果、補強は行っていない。また、旧ゴールド街部分は、ビルと一体であった建築物の地下階として耐震診断を行い、耐震補強を実施している。

g) その他

リニューアルにあたっては、地下街を6つのゾーンに分け、ゾーンごとに特徴をもった業態を集積し、変化のある地下街づくりを行うとともに、サンクンガーデンを介して接続する新駅ビル（ピオレ）とのすみ分けを行なっている。

また、サンクンガーデンに面する地下街としての特徴を生かすため、空間が明るく広く見えるよう、素材、色調、天井の納まりなどを工夫した。

(3) リニューアル工事の概要

姫路駅周辺整備に伴い移転する旧駅ビルのテナント及び営業が困難となる地下街テナントの仮移転先として、駅前広場に接する市営バス乗降場跡地（市有地）にフェスタビル南館（平成23年2月竣工：㈱フェスタ）を整備。

テナントとの補償交渉を平成19年9月より開始し、平成23年2月から移転完了したブロック毎に順次閉鎖して、リニューアル工事に着手。工事は、内装・設備をすべて撤去する、いわゆるスケルトン状態にして実施した。



写真-4 内装等撤去状況



写真-5 内装等撤去状況

(4) 改修後の地下街の概要

延べ床面積（地下街面積）：7,231 m²

うち、店舗面積：3,258 m²

通路面積：2,885 m²

○店舗区画数 …51区画

うち、物販・・・29店

飲食・・・14店

サービスその他・・・8店

○出店形態・・・定期建物賃貸借契約

○営業時間・・・物販：午前10時～午後8時

飲食：午前11時～午後11時



写真-6 リニューアル後

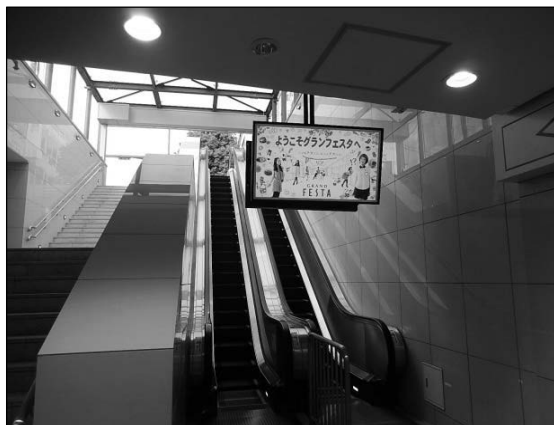


写真-7 リニューアル後（新設エスカレーター）

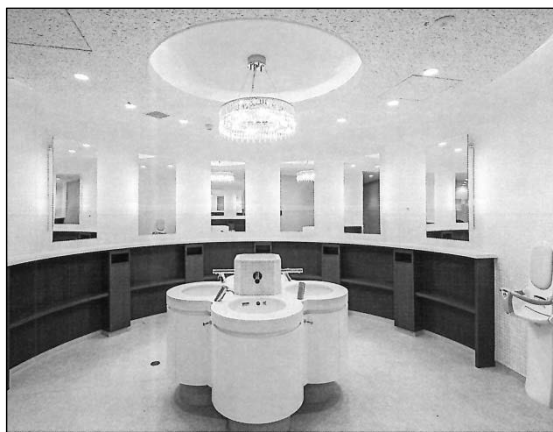


写真-8 リニューアル後（トイレ）

(5) グランドオープン

グランドオープン（平成25年3月28日）の際には、市長や姫路市商店街連合会会長らも参列し、午前9時30分から式典を開催。テープカットが行われ、待ちかねた多くの市民の皆さんが、次々に新しく生まれ変わった地下街に押し寄せ、買い物や飲食などを楽しまれた。

新しい地下街は、姫路初出店の店舗誘致に成功したことやパウダールームを併設した女性用トイレの設置、バリアフリー化、ユニバーサルデザインによる案内板などにより利用者の方々の評価は好評である。

また、4月30日にサンクンガーデンが供用開始したことで、サンクンガーデンを介し、同日オープンした新駅ビル（ピオレ）と地下街（グランフェスタ）とが地下レベルで結ばれ、駅前の地下空間が大きく変わる事となった。



写真-9 グランドオープン（式典）

4. おわりに

グランフェスタは、平成26年3月にグランドオープンから1年を迎える。今回、地下街の全面改修を行ったが、地下街にライフラインを供給していた旧駅ビルが公共事業により移転撤去されるというタイミングと、テナント移転交渉において、行政、事業主（㈱フェスタ）及びテナント組合と協議を重ね、駅前の将来像を共有できたことで事業の進展が大きく加速した。

グランフェスタを初め、新たに整備されたサンクンガーデンや新駅ビル（ピオレ）の集客効果とあわせ、平成26年1月からは、姫路ゆかりの稀代の軍師・黒田官兵衛を主人公にした大河ドラマ「軍師官兵衛」が放送され、駅前にはさらに多くの市民や観光客の来訪が予想されている。

駅前整備工事は、平成27年3月まで続く予定であるが、工事期間中はもちろん、整備後においても官民協働により、姫路都心部がハード・ソフト両面で、より魅力ある街となるよう、市民・行政・事業者で力を合わせ、駅前空間の整備・活用を進めていきたい。